iBAQS-FX リリースノート

この度は、iBAQS-FX をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、バージョンアップにより追加される機能、仕様変更、修正内容をお知らせするものです。

ソフトウェアバージョン　4.3.0

ソフトウェアバージョン 4.0.0 未満からバージョンアップを行う場合にはアップデート完了後の再起動をしてからおよそ 20 分の間、管理画面へのアクセス、認証、IP アドレスの払い出し等の処理が行えない状態となります。管理画面へ再びアクセスできるようになる前に強制的に電源をお切りいただきますと正常に起動できない状態となりますのでご注意ください。
ダウンロードサイズが大きく、ご利用のネットワーク環境によってはアップデート処理完了時にセッションタイムアウトが発生する可能性があります。アップデート適用前にサーバ設定画面からセッションタイマーを長めに変更してください。アップデート完了時にセッションタイムアウトが発生してしまった場合には必ず再度ログインいただき、サーバ設定から再起動を手動で行ってください。
一度バージョンアップを行うとバージョンダウンを行うことができませんのでご注意ください。

1 新機能

ソフトウェアバージョン 4.2.0 から 4.3.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

1.1　連続認証失敗ロック機能を追加しました。
　　指定した回数、連続で認証失敗となったクライアントは正規のパスワードであったとしても認証成功しなくなります。総当たり攻撃や辞書攻撃からアカウントを保護したい場合にご利用ください。

1.2　コンソールメニュー機能を追加しました。
　　ブラウザで管理画面にアクセスできなくなった場合や初期設定時 IP アドレスがわからなくなった場合に、モニタとキーボードを接続するか、シリアル接続することで、管理者 ID による簡易的な操作が可能です。操作可能な内容は取扱説明書をご確認ください。

1.3　ネットワーク機器の一括変更、一括削除機能を追加しました。
　　CSV ファイルを用いたネットワーク機器の一括追加、更新、削除を行うことが可能になります。

2 改善事項

ソフトウェアバージョン 4.2.0 から 4.3.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

2.1　検知モード時、未登録のクライアントを検出した場合には管理ログ、アラートメールだけではなく、不正アクセス状況画面へも記録を行うように仕様変更しました。

2.2　クライアント証明書発行画面にて発行状態を指定して検索した際に、結果画面の発行状態が選択した内容と異なる場合がある問題を修正しました。

2.3　クライアント一括変更でエラーが含まれていた場合、入力件数とエラー件数を表示するように修正しました。また、エラーが含まれている場合にはすべての処理が行われないことを明記しました。

2.4　Internet Explorer を互換表示モードで利用している場合に、クライアント追加、編集画面のレイアウトが崩れる問題を修正しました。

2.5　認証パターンに「クライアント証明書」または「クライアント証明書＆MAC アドレス」を指定したクライアントを追加した際、証明書の有効期間が必ず「1 年」として登録されてしまう問題を修正しました。

2.6　クライアント追加、変更画面でパスワード入力後、DHCP タブのセグメント指定を行い、追加/編集ボタンをクリックすると、異なるパスワードが保存されてしまい、正しく認証できなくなる問題を修正しました。

2.7　ネットワーク機器監視処理において、ping 確認を 1 回タイムアウト 1 秒から 3 回タイムアウト 1 秒に変更し、応答が得られない場合のみ異常として扱うように修正しました。例外として、一定期間（ネットワーク機器監視処理の実行間隔）認証要求を受け付けていないネットワーク機器については応答が得られない場合においても正常として扱います。

3 制限事項

ソフトウェアバージョン 4.3.0 では以下の制限事項があります。

3.1　PEAP、EAP-TTLS 使用において内部認証に EAP 方式の認証を利用することが出来ません。
サポートする内部認証は下記の通りです。
・PEAP ： MS-CHAP v2　　・EAP-TTLS ： PAP

3.2　EAP-TTLS を利用する場合、外部認証のユーザーID は anonymous か内部認証と同一のユーザーID でなくてはなりません。anonymous を使用されることを推奨します。

3.3　外部認証局発行の証明書を使用して PEAP、EAP-TTLS、EAP-TLS 認証を行うことが出来ません。

4 注意事項

ソフトウェアバージョン 4.0.0 以降では以下の注意事項があります。

4.1　バージョン 3.X 以前のクライアントの「認証対象」が、バージョン 4.0 からは「認証パターン」という表現となったことを受け、次のように移行されます。

アップデート前の「認証対象」	アップデート後の「認証パターン」
「ユーザーID」と「クライアント証明書」にチェック	「クライアント証明書　認証」を選択
「MAC アドレス」、「ユーザーID」、「クライアント証明書」のすべてにチェック	「MAC アドレス認証」を選択

表示上は上記のように表示されますが、認証データは変更せずに移行するため、認証ができなくなることはありません。

以上